

非稼働病床の現況について (三島 二次医療圏)

※過去1年間一度も稼働していない病床を有する病院または過去1年間病床が一度も稼働していない有床診療所（非稼働病床という）

	医療機関名	所在市区	非稼働病床の状況			計画		
			病床数	非稼働になった時期	稼働できない理由	計画内容	達成時期	計画の詳細
1	北大阪ほうせんか病院	茨木市	31床	令和5年度	病棟を順次リノベーションを行っており、1病棟については2026年度リノベーション工事竣工予定。	B.再稼働する。	B.翌年度中	リノベーション工事は2026年度中の竣工予定。看護師等の人員採用を進め、一般病棟としての再稼働を予定。
2	医療法人友絃会 彩都友絃会病院	茨木市	4床	令和5年度	4階病棟を障害者病棟に変更にしたことによる看護体制の確保が難しかったため。徐々に患者の受け入れを進めている状況。	B.再稼働する。	B.翌年度中	今後も患者受け入れを段階的に進める。2026年度までに非稼働病床の解消を目指す。
3	高槻赤十字病院	高槻市	24床	令和3年度	看護職員の不足により、施設基準を満たせなくなるため、やむなく非稼働としている。	B.再稼働する。	D.未定	令和7年9月に10床返還（非稼働病床）し、令和7年10月より許可病床が325床（非稼働病床24床）。次期末定であるが、将来的に建替を検討している。非稼働病床については、現在職員確保に注力しており体制が整い次第再開の検討を進めている。
4	大阪医科薬科大学病院	高槻市	44床	令和4年度	キャンパス内の病院施設建て替え工事が継続中であり、44床を休床としている。	E.その他		非稼働病床の今後の計画については、以下の複合的な要因を踏まえて検討していくが、現時点では流動的で不確実な要素が多いため具体的な時期や方針は示しづらい状況にある。 【複合的な要因】 ① 当該非稼働病床が設置されている病棟を含む病院施設の建て替え工事 ② 次年度以降に示される新たな地域医療構想を踏まえた法人附設医療機関全体の病床機能設定 ③ 令和8年度診療報酬改定の内容と想定される医療需要や供給量への影響 ④ 非稼働病床を活用するための医療人材確保状況の分析・調査 上記①～④について整理していくことで、今後の方針と時期を順次、策定していく予定である。